

最高のおもてなし

ねんりんピックその後



「ねんりんピック2011熊本大会に参加させていただきありがとございました」

「天津町の皆さん、最高のピッチと大きな温かいおもてなし、大変ありがとうございました」
「残念ながら3連敗しましたが、皆さんの明るい笑顔と心温まるお世話で、ねんりんピック熊本大会を思う存分楽しむことができました」

ねんりんピック閉会后、天津町にこんな手紙が多く届いた。
天津町で開催された「サッカー交流大会」は、全国から選ばれた全56チームが参加。サッ

カー交流大会に出場した選手は、年齢を感じさせないプレーを見せた。

その選手の皆さんに、天津なりのおもてなしをしようと、多くの人がねんりんピックにボランティアで参加した。そのおもてなしは、選手の皆さんにとっても好評だった。ボランティアの皆さんのおもてなしが今大会が成功した要因の一つと言っても言い過ぎではない。それは手紙を見れば分かる。

今回は、ねんりんピックを振り返って、おもてなしとは何かを考えてみる。

みんなで「やったー！」と喜びました



大津町食生活改善推進協議会
にし西又工子さん

選手の皆さんに「ヒカド」(からいもを使ったとろみのあるスープ)を提供しました。2日間で800食を作るのは大変でしたが、選手の皆さんが食べた後に喜んでのを見ると疲れも飛びました。「ヒカド」を800食全て食べてもらったときは、全員で「やったー！」と叫びました。一気に今までの努力が報われた気がしました。

私たちは、今まで活動することに不安があったのですが、全国の皆さんにおもてなしをしてみると「やればできる」ことが分かりました。これからもこの思いを忘れずに、地域に出て活動したいと思っています。食から大津町を元気にしていきたいですね。

私たちの目的は「今までの練習の成果を出して、楽しくプレーしてもらおう」でした。そのために、試合で痛めた部分をマッサージなどで痛みを和らげてあげようと思いました。7月から勉強会を行い、筋肉の成り立ちやテーピングの方法などをみんなで勉強をしました。とても大変でしたが、大会1日目に来た人が、仲間を連れてまた来てくれるなど、多くの人と交流を深めることができました。

この大会に参加して、会のみんなも明るくなり、積極的になったような気がします。これからは、またいろんな勉強会もやって、町のために何かお手伝いができたら良いと思っています。

みんなが積極的に なりました



大津町鍼灸マッサージ師会
きもととしゆき
木本年幸さん
よしこ
佳子さん



大津高校や翔陽高校の生徒たちもボランティアスタッフとして頑張ってくれました



翔陽高校 1年
おおつちもか
大津百加さん
いわしたゆき
岩下有希さん
いわしたさくら
岩下咲良さん

岩下咲良さん
写真や手紙を送ってもらいました。大変だったけど、頑張ってた良かったなと思いました。秋田県の人から東北の震災のことなどいろんな話を聞かせてもらい、交流することの楽しさを学びました。

岩下有希さん
最初は、私にできるかなと不安でしたが、山梨県の人たちは私のおじいちゃんみたいな感じで接してくれました。たった2日間のお付き合いでしたが、メールで感謝の言葉も送ってくれて、とても深い思い出ができました。

大津百加さん
初めてのボランティアであまり動くことができなかったけど、担当した京都の人にやさしくしてもらい、人への気遣いは大変なことですが、喜んでもらったときは、とてもうれしかったです。

「ねんりんピック2011熊本の経済効果は107億円」。県健康福祉部が発した推計は、予想していた90億円を大きく上回る結果となった。一般来場者も前回大会より1万人も多く、来場者の98・5%が「また熊本にきたい」と思ったという。ねんりんピックは、参加者に、熊本の良さを伝えた。

取材時に木本さんは「一生懸命やればなんとかなるんじゃないですか」と笑って話した。その言葉は自分たちが取り組む真摯さを感じることでできた。その一生懸命さが選手の皆さんに伝わったのだろう。そして、西さんは今回のもてなしを「ボランティアだからできることなんです」と話した。お金じゃなく、心に利益があることがボランティアだと言う。

特集 最高のおもてなし ねんりんピックその後 終

